

2023年7月16日
礼 拜

聖書

創世記37章12～36節

37:12 その後、兄たちは、シエケムで父の羊の群れを世話するために出かけて行った。37:13 イスラエルはヨセフに言った。「おまえの兄さんたちは、シエケムで群れの世話をしている。さあ、兄さんたちのところに使いに行ってもらいたい。」ヨセフは答えた。「はい、参ります。」37:14 父は言った。「さあ、行って、兄さんたちが無事かどうか、羊の群れが無事かどうかを見て、その様子を私に知らせておくれ。」こうして彼をヘブロン¹の谷から使いに送った。それで彼はシエケムにやって来た。37:15 彼が野をさまよっていると、一人の人が彼を見かけた。その人は「何を捜しているのですか」と尋ねた。

37:16 ヨセフは言った。「兄たちを捜しています。どこで群れの世話をしているか、どうか教えてください。」37:17 すると、その人は言った。「ここからは、もう行ってしまいました。私は、あの人たちが『さあ、ドタンの方に行こう』と言っているのを聞きました。」そこでヨセフは兄たちの後を追って行き、ドタンで彼らを見つけた。37:18 兄たちは遠くにヨセフを見て、彼が近くに来る前に、彼を殺そうと企んだ。37:19 彼らは互いに話し合った。「見ろ。あの夢見る者がやって来た。

37:20 さあ、今こそあいつを殺し、どこかの穴の一つにでも投げ込んでしまおう。そして、狂暴な獣が食い殺したと言おう。あいつの夢がどうなるかを見ようではないか。」

37:21 しかし、ルベンはこれを聞き、彼らの手から彼を救い出そうとして、「あの子を打ち殺すのはやめよう」と言った。

37:22 また、ルベンは言った。「弟の血を流してはいけない。弟を荒野の、この穴に投げ込みなさい。手を下してはいけない。」これは、ヨセフを彼らの手から救い出し、父のもとに帰すためであった。

37:23 ヨセフが兄たちのところに来たとき、彼らは、ヨセフの長服、彼が着ていたあや織りの長服をはぎ取り、

37:24 彼を捕らえて、穴の中に投げ込んだ。その穴は空で、中には水がなかった。

37:25 それから、彼らは座って食事をした。彼らが目を上げて見ると、そこに、イシュマエル人の隊商がギルアデからやって来ていた。彼らは、らくだに樹膠と乳香と没薬を背負わせて、エジプトへ下って行くところであった。

37:26 すると、ユダが兄弟たちに言った。「弟を殺し、その血を隠しても、何の得になるだろう。」

37:27 さあ、ヨセフをイシュマエル人に売ろう。われわれが手をかけてはいけない。あいつは、われわれの弟、われわれの肉親なのだから。」兄弟たちは彼の言うことを聞き入れた。

37:28 そのとき、ミディアン人の商人たちが通りかかった。それで兄弟たちはヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でヨセフをイシュマエル人に売った。イシュマエル人はヨセフをエジプトへ連れて行った。

37:29 さて、ルベンが穴のところに帰って来ると、なんと、ヨセフは穴の中にいなかった。ルベンは自分の衣を引き裂き、

37:30 兄弟たちのところに戻って来て言った。「あの子がいない。ああ私は、私は、どこへ行けばよいのか。」

37:31 彼らはヨセフの長服を取り、雄やぎを屠って、長服をその血に浸した。

37:32 そして、そのあや織りの長服を父のところに送り届けて、言った。「これを見つけました。あなたの子の長服かどうか、お調べください。」37:33 父はそれを調べて言った。「わが子の長服だ。

悪い獣が食い殺したのだ。ヨセフは確かに、かみ裂かれたのだ。」37:34 ヤコブは自分の衣を引き裂き、粗布を腰にまとい、何日も、その子のために嘆き悲しんだ。37:35 彼の息子、娘たちがみな来て父を慰めたが、彼は慰められるのを拒んで言った。「私は嘆き悲しみながら、わが子のところに、よみに下って行きたい。」こうして父はヨセフのために泣いた。37:36 あのミディアン人たちは、エジプトでファラオの廷臣、侍従長ポティファルにヨセフを売った。

説教
「罪の支払う報酬」

先週は二人の恵まれた洗礼式をびわこで行うことが出来、感謝です。雨の予報でしたが、洗礼式の間、雨が降らず、すべてが恵まれて終わって、帰る車の中で豪雨となって来ました。

自然を支配される主の御力を目の当たりに見た洗礼式でした。

これからの人生、雨や豪雨もあるかも知れませんが、守ってくださる主が共にいてくださる証しの洗礼式でした。

今日は又、ヨセフの生涯の学びに戻ります。
ヨセフは2度、夢を見ました。いずれもお兄さんたち、
又両親もヨセフの周りに来てひれ伏す、ヨセフは家
族皆の支配者になるという夢をお兄さんたちを呼び
集めてわざわざ2回も丁寧に説明しています。その
意味津々の夢をヨセフが語るのを聞いてお兄さんた
ちがどんな気持ちで聞いているか、ヨセフは全くわか
ろうとしていません。お兄さんたちから憎まれ、恨みを
買うことになってしまいました。

ヤコブは12人の子の中でヨセフを誰よりも愛して
いました。特別上等の綾織りの長服を作って着せて
いました。子供を平等に愛さないこと、
これは神を信じるヤコブ、又その家族に於いて大き
な罪でした。

この偏愛と言う罪は十戒に照らし合わせると代何戒に違反する罪でしょうか。

汝、子供を偏愛すべからず、と言う戒めはありません。でも偏愛は罪です。どの戒めが適応されるのでしょうか。

このことは説教の締めくくりで考えたいと思います。

第1戒「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々
があってはならない。」

第2戒「あなたは、自分のために、偶像を造っては
ならない。」

第3戒「あなたは、あなたの神、主の御名を、みだ
りに唱えてはならない。」

第4戒「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。」

第5戒「あなたの父と母を敬え。」

第6戒「殺してはならない。」

第7戒「姦淫してはならない。」

第8戒「盗んではならない。」

第9戒「あなたの隣人に対し、偽りの証言をして
はならない。」

第10戒「あなたの隣人の家を欲しがってはなら
ない。」

ヤコブには二人の妻と二人の女奴隷がいて、4人の女性から12人の男子をもうけています。

レア・・・ルベン、シメオン、レビ、ユダ、
イッサカル、ゼブルン

ジルパ・・・ガド、アシエル

ビルハ・・・ダン、ナフタリ、

ラケル・・・ヨセフ、ベニヤミン

ヤコブは4人の女性の中でラケルを偏愛しています。
ラケルへの偏愛から、その子のヨセフ、ベニヤミンを偏愛し
ています。

ダビデも複数の女性を妻としています。

ソロモンは700人の妻と300人の側室を持つ狂気の沙汰となっています。

ダビデ、ソロモンはこれが原因で多くの問題に遭遇しています。

複数の人を平等には愛せません。
ですからパートナーは一人であります。

マタイ19:4

イエスは答えられた。「あなたがたは読んだことがないので
ですか。創造者ははじめの時から『男と女に彼らを創造
され』ました。19:5 そして、『それゆえ、男は父と母を離
れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである』と言
われました。19:6 ですから、彼らはもはやふたりではなく
一体なのです。そういうわけで、神が結び合わせたもの
を人が引き離してはなりません。」

ヤコブの罪

4人の女性を持った。

ラケルとその子ヨセフを偏愛した。

ヨセフに偏愛のしるしとして長服を着せた。

ヨセフの罪

ヤコブの偏愛を当たり前と思っている。
兄弟は平等、それを違反しての偏愛、
長服を当たり前として受け取っている罪。
兄たちへの敬意、愛の無い罪。

ヨセフは夢を見た。夢の内容を告げれば、兄たちは心が傷つく、心が痛む、そのような兄たちの心が読めない、
鈍感の罪、自己中心の罪。

兄たちの罪。

37:18 兄たちは遠くにヨセフを見て、彼が近くに来る前に、彼を殺そうと企んだ。37:19 彼らは互いに話し合った。

「見ろ。あの夢見る者がやって来た。

37:20 さあ、今こそあいつを殺し、どこかの穴の一つにでも投げ込んでしまおう。そうして、狂暴な獣が食い殺したと言おう。あいつの夢がどうなるかを見ようではないか。」

弟ヨセフを穴に落とし入れ、殺そうと企てる罪。
これは殺意に燃えるシメオン、レビが企てたのではない
か。

殺してはならない、それを企画する罪。

弟を奴隷として売ろうとするユダの罪。
それに賛同した兄弟たちの罪。
弟ヨセフを愛さない、殺人の罪。

彼らが目を上げて見ると、そこに、イシュマエル人の隊商が
ギルアデからやって来ていた。彼らは、らくだに樹膠と乳香
と没薬を背負わせて、エジプトへ下って行くところであった。

37:26 すると、ユダが兄弟たちに言った。「弟を殺し、その
血を隠しても、何の得になるだろう。37:27 さあ、ヨセフをイ
シュマエル人に売ろう。われわれが手をかけてはいけない。
あいつは、われわれの弟、われわれの肉親なのだから。」

兄弟たちは彼の言うことを聞き入れた。

37:28 そのとき、ミディアン人の商人たちが通りかかった。それで兄弟たちはヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でヨセフをイシュマエル人に売った。イシュマエル人はヨセフをエジプトへ連れて行った。

弟をエジプトへ奴隷に売り飛ばす愛の無い罪。

創世記42章21節

42:21 彼らは互いに言った。「まったく、われわれは弟のことで罰を受けているのだ。あれが、あわれみを求めたとき、その心の苦しみを見ながら、聞き入れなかった。それで、われわれはこんな苦しみにあっているのだ。」

ヨセフの長服を取って雄山羊を殺して血に浸して
父ヤコブに見せた。

「これを見つけました。あなたの子の長服かどうか、お調
べください。」

証拠品ねつ造の罪。
偽善、偽装の罪。

37:33 父はそれを調べて言った。「わが子の長服だ。悪い獣が食い殺したのだ。ヨセフは確かに、かみ裂かれたのだ。」

父ヤコブを欺く罪。

37:34 ヤコブは自分の衣を引き裂き、粗布を腰にまとい、何日も、その子のために嘆き悲しんだ。

37:35 彼の息子、娘たちがみな来て父を慰めたが、彼は慰められるのを拒んで言った。「私は嘆き悲しみながら、わが子のところに、よみに下って行きたい。」こうして父はヨセフのために泣いた。

元凶はヤコブのラケル偏愛の罪。
その結果はヨセフへの偏愛・溺愛の罪。
ヤコブには偏愛の罪意識がなかった。
偏愛して当たり前。
ここが問題。なぜか。

ヤコブがラバンの所に来てラケルを一目惚れした。

プロポーズをした。花嫁料がないので

7年ラバンの所で働いた。

7年経ってラケルを下さいとラバンに申し出た。

その夜ラバンはラケルではなく長女のレアを新婚のテントに送った。

ヤコブは好きなラケルと思って一夜を過ごして

夜が明け、明るみで相手を見るとラケルではなくレアであった。

だまされたヤコブは激しくラバンに抗議。
ラケルはもう7年働けばラケルもあげる、
ヤコブはラケルをもらってもう7年、無報酬で働かされる
羽目になってしまった。

ヤコブにはこの結婚、ラバンにだまされ、さらに7年もただ働きしななければならない被害者意識しかなかった。

だましたラバンへの怒りがラケル偏愛を助長して、そこに罪意識は無い。偏愛で家族がどれだけ傷つき悲しんでいるかが、ヤコブは思い及ばなかった。

この事態の責任はすべてラバンの所為である。

ヤコブは責任をラバンに転嫁している。

被害者意識の心の傷から、家族への配慮が全く出来ていない。

でも本当にこの結婚にヤコブは責任が無かったのでしょうか。新婚のテントにレアさんが送られてきて待っていた。そこへヤコブが入って行った。ランプもない、月明かりもない、闇夜の中でラケルと信じて一夜を過ごしたらレアであった。

二人は体の交わりをする前に挨拶のことば、7年間待っていたいただいた感謝のことば、神様への祈り、結婚生活への豊富期待、こんなことばをかわすことは無かったのでしょうか。ことばの交わりがあればこの事態は避けられているでしょう。

その大切なことばの交わりをしなかった責任をヤコブは
取ろうとしていません。悪いのはすべてラバン、だからラケ
ルを偏愛してどこが悪い。諸悪の根源はすべてラバンで
ある。ヤコブは罪意識無くラケル、ヨセフを偏愛し、あや
織りの長服を着せ、堂々と偏愛をして、ヨセフがエジプ
トに売られて行く結果となっています。

ラバンに90%の問題があってこの事態になった。
しかしヤコブは自分の10%の問題をしっかりと見つめて
悔い改めていたら、この事態にはならなかったかも知れ
ません。

人との関わりで多くの問題が起こります。自分の1%で
も問題があれば、それをしっかりと見つめて悔い改めて、
人の所為にしなない生き方を送りましょう。

祈り。